

多胎育児の困難と
オンライン多胎支援サービスの有効性
に関する調査研究[†]

特定非営利活動法人 つなげる[‡]

2022年3月

要旨

本稿は、2022年2月に当法人が実施した「ふたごつなげるアンケート 2022」に関する報告書である。アンケートの集計結果からは、多胎（ふたご・三つ子等）の養育者（ママ、パパ等）が育児において様々な困難を抱えていることが明らかになった。また、得られたデータを用い、統計的手法を用いて当法人の支援の有効性を検証した結果からは、困難の解消にむけて 当法人が行う支援に一定の効果が見られることが明らかになった。本稿ではこうした結果を報告する。

[†] ©NPO 法人つなげる。本アンケートの回答者、ならびにアンケート実施にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。本報告書の内容を引用される場合は、NPO 法人つなげる「ふたごつなげるアンケート 2022 報告書」の明記をお願いいたします。また学術論文・書籍等へ引用いただく際の完全な文献情報は、NPO 法人つなげる(2022)「多胎育児の困難とオンライン多胎支援サービスの有効性に関する調査研究—「ふたごつなげるアンケート 2022」報告書—」としていただければ幸いです。

[‡] 兵庫県尼崎市塚口町 1-25-2。 <https://tsunagerunpo.com/contact/>。本稿の分析・執筆は内田浩史（理事、神戸大学大学院経営学研究科教授）が担当した。

1. はじめに

本稿は、兵庫県尼崎市所在の NPO 法人つなげる（以下当法人）が、多胎育児の困難に関する実態把握と、オンライン多胎支援サービスの有効性検証を目的として実施したアンケート調査「ふたごつなげるアンケート 2022」（2022 年 2 月実施）について、得られた結果と、そのデータを用いて行った分析結果を報告する報告書である。

当法人は、全国の多胎児（ふたご・三つ子等）の養育者（ママ、パパ等、以下代表的に「多胎ママ」と表現する）に対し、オンラインを中心とした支援を行う NPO 法人である。多胎児の妊娠・出産は単胎（一人の子ども）の場合と比べてリスクが高く、産後も育児負担が重い。また数が少ないこともあってか単胎の場合よりも育児負担が重いことがあまり理解されておらず、適切な支援が得られない場合も多い。このため、多胎ママは社会から孤立しがちであり、育児の困難さから無力さを感じ、自信を失い、産後鬱や虐待、自殺といった深刻な状況に陥ることも少なくない。多胎妊産婦に対しては以前から、①情報提供、②精神的サポート、③育児スキルの伝授、④身体的負担の軽減といった支援が必要であることが指摘されていた（日本多胎支援協会(2018)）。令和 4 年度厚労省予算案でも多胎妊産婦への支援が盛り込まれ、多胎育児の問題は社会課題の 1 つとして認識されている。こうした問題は、人と人とのつながりが失われたコロナ禍において、さらに深刻化しているものと考えられる。

こうした問題の実態を把握するとともに、問題の解決を目指して当法人が行っているオンライン支援サービスの有効性を検証することを目的として、当法人ではアンケート調査が「ふたごつなげるアンケート 2022」（以下「アンケート」）を実施した。同調査は当法人が提供するオンラインサービスの利用者に回答を依頼し、336 人から回答を得た。本稿では、このアンケートの目的とその設計、実施方法を説明したうえで、得られた回答の状況と、支援の有効性を検

証した結果を報告する。

以下ではまず第2節において、当法人が提供しているオンラインでの支援の内容とその目的を、背景情報として説明する。続く第3節では、多胎育児の問題の実態把握、ならびにオンラインサービスの効果の検証のために、アンケートをどのように設計し、実施したのかを説明する。第4節では得られた結果を示すとともに、支援の効果を検証した結果を示す。

得られた結果からは、多くの多胎ママが、育児において自責の感情や無力感・孤立感を持ち、自信を失っている状況が明らかになった。他方で、当法人のサービスの利用後にはこうした困難が軽減され、その変化は統計的にも有意であることが分かった。さらに、軽減をもたらす要因として、サービスの利用を通じて他の多胎ママの相談や質問に共感を得ること、ならびに自分と似た苦しい状況の多胎ママの存在を知ることが重要であることが分かった。当法人では、必要な支援の第一歩として「多胎ママ同士をつなげる」支援、すなわち孤立した状態に置かれた多胎ママを互いにつなげるという支援を行っているが、得られた結果はこの支援に効果があることをデータから裏付けている。

2. 背景情報

2.1. つなげるオンラインサービスの概要

当法人の主な活動の一つは、オンラインによる多胎ママ支援サービスであり、多胎ママ同士のつながりを生み出し、多胎育児情報の入手を容易にし、多胎ママの社会的孤立を防ぐために提供しているものである。具体的には、モバイルメッセージサービス LINE のオープンチャットを用いて提供するオンラインコミュニティサービス「ふたごのへや」、チームコミュニケーションツール Slack を用いて提供する「ふたごのいえ」、バーチャルオフィスサービス oVice を用いて提供する「ふたごのひろば」という三つが、アンケート実施ならびに

本稿執筆時点で提供しているオンラインサービスである。このうち「ふたごのいえ」は有料サービスであるが、助成金等を使って無料で参加している利用者も存在する。アンケート実施時点の直近のデータとして、2 月末時点では「ふたごのへや」の登録者が約 1785 名、「ふたごのいえ」の参加者が 128 名「ふたごのひろば」の参加者が約 231 名であった。

これらのサービスはすべてオンライン上で提供されているため、居住地域を問わず多胎ママが他の多胎ママや社会とつながる手段となっている。特に、LINE を利用し最もアクセスがしやすい「ふたごのへや」は、孤立し困難を抱えた多胎ママに当法人につながってもらい、当法人から必要な支援につなげるための入り口の役割を果たしている。

2.2. サービスの目的とつなげるセオリー・オブ・チェンジ

当法人はこうしたオンラインサービスを、社会課題である多胎育児問題の解決に向けた重要な第一歩だと考えている。一人で複数の子供の育児を行う多胎ママは、単胎の場合と比べて二倍・三倍の授乳や沐浴、排せつ物の処理などを行う必要があり、毎日 24 時間育児に追われ、精神的に追い込まれ、孤立し困難を抱えがちである。また、そうした多胎ママは往々にして「育児は家庭の問題である」といった社会的通念に縛られ、支援が得られることを知らず、また自分が支援を必要とすること、求めてよいことにすら気づいていないことがある。

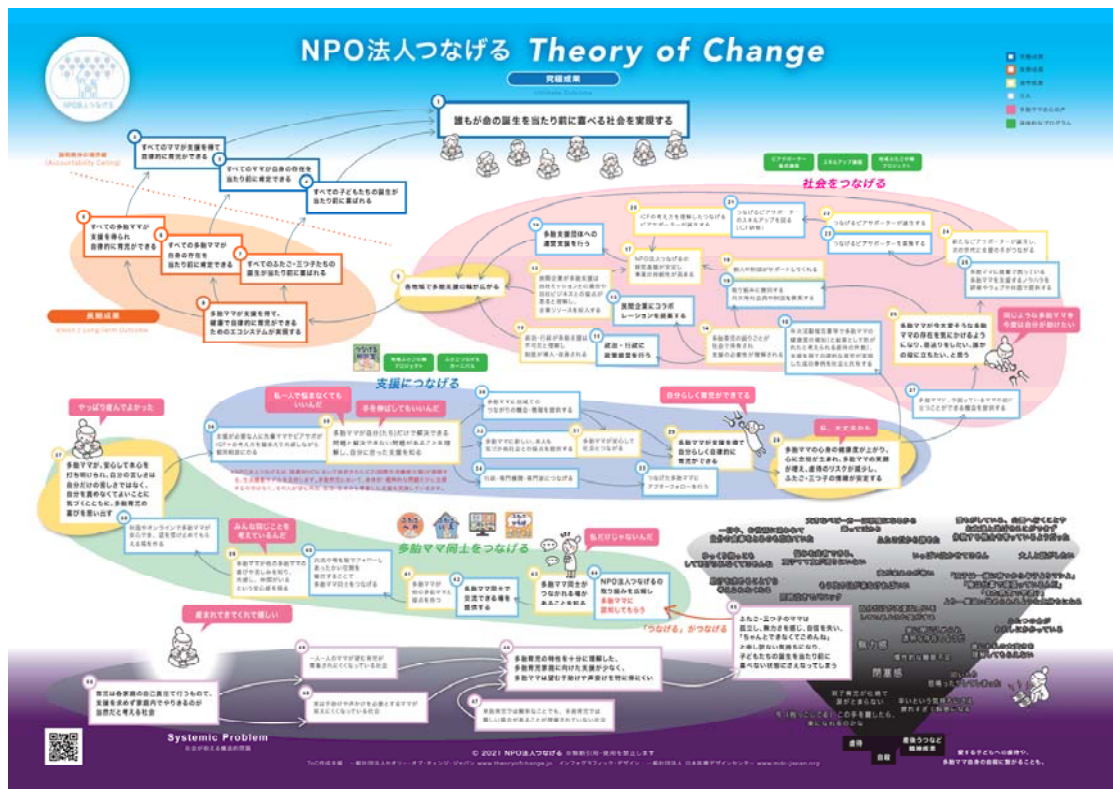
こうした多胎ママに上記サービスにつながってもらうことは、他の多胎ママの育児の状況や感情を知ってもらうとともに、自らが置かれた状況を客観的に理解し、やりとりされる書き込み等に共感して安心感を得てもらうことにつながる。また、安心感を得た多胎ママは、他の多胎ママのやり取りを受動的に眺めている段階から、自ら能動的に他のママと関わろうという段階へと変化し、自分の気持ちを打ち明け、多胎育児の困難を客観的に理解し、困難な状態が自

らの責任だけで発生しているわけではないことに気づき、子どもの誕生が嬉しいことだと気づく状態に至る。

以上のような多胎ママの状態の改善は、当法人の代表理事が自ら多胎ママとして直面してきた経験、ならびに法人の活動を通じて蓄積してきた多くの多胎ママの経験に基づき、活動に落とし込んできたものである。当法人は、こうした社会課題としての日本の多胎育児の問題とその解決に向けた道筋を、当法人が考える課題解決の理論として、社会課題を可視化するツールの一つである「セオリー・オブ・チェンジ (Theory of Change、ToC)」を用いて表現している。

¹ この「つなげる ToC」を示したのが図1である。²

図1 つなげる ToC (全体)



¹ ToC について、詳しくは田辺・内田 (2022) を参照。

² 「つなげる ToC」はホームページ上に公表している (<https://tsunagerunpo.com/news/7992/>)

図に示したように、つなげる ToC はいくつかのパートに分かれており、多胎ママが困難を抱える状況（下部）から矢印の順に状態を改善させ、望ましい社会の状態を達成する道筋を描いている。この経路のうち、青枠の四角（box）は当法人が行う活動（ToC では介入と呼ばれる）であり、黄枠の四角（box）はその活動によって達成されると考えられる状態（ToC では途中成果と呼ばれる）である。課題を解決して団体が最終的に達成を目指す状態が左上の「長期成果」と呼ばれる部分であり、さらにその先（上部中央）には、他の団体とともに、あるいは社会全体として達成すべき状態が「究極成果」として示されている。上記のオンラインサービスを通じた多胎ママ支援は、このつなげる ToC でいえば課題を抱えた状況（下部、ならびに右下の逆三角形）の部分から課題解決に向けて行う最初の支援であり、図中「多胎ママ同士をつなげる」と表現されたパートにあたるものである。

3. アンケートの概要と分析手法

3.1. アンケートの目的

上記の理論、あるいはつなげる ToC に示した課題解決の道筋は、当法人の活動から得た経験に基づくものであり、実際に事例として観察してきたものである。しかし、こうした事例がどこまで一般的に見られるのか、当法人が行っているオンラインでの多胎ママ支援が有効であるのかは、法人外部に客観的かつ説得的な形で説明することができていなかった。こうした説明は、当法人が社会問題の解決していること、すなわち社会的インパクトあるいは社会的価値を生み出していることの証拠（エビデンス）を示す上でも重要である。

そこで、当法人では客観的なデータを用いてオンライン支援サービスの有効性を示し、上記に示した道筋の蓋然性を検証することにした。そのデータ収集

のために設計し、実施したのが「ふたごつなげるアンケート 2022」である。

3.2. アンケートの実施

アンケートはオンライン上で、Google Form を用いて実施した。参考のために、回答者から見た Google Form の入力フォームの画面を、補論に画像キャプチャーとしてまとめている。

アンケートの調査対象は、上記三つのオンラインコミュニティの利用者である。回答の依頼は、それぞれのコミュニティと当法人の公式 LINE において行った。期間は 2022 年 2 月 7 日から 15 日である。その結果、336 人から回答を得た。この 336 人の中に多胎ママ（養育者）以外が含まれている可能性は低い。³

3.3. アンケートの設計

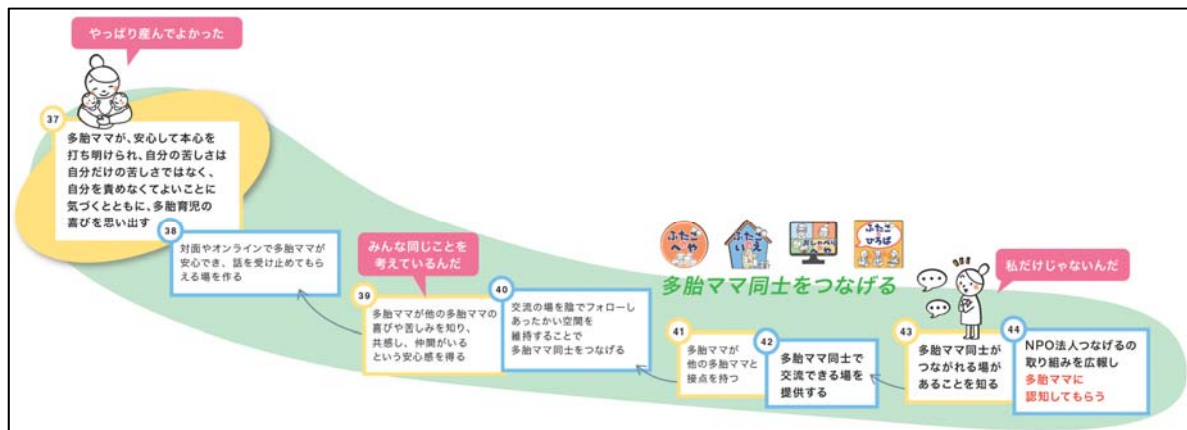
上記の通り、アンケートはつなげる ToC（図 1）のうち「多胎ママ同士をつなげる」と表現されたパートの想定（理論仮説）が正しいかどうかを検証できるよう設計した。このパートを拡大したのが図 2 である。

このパートで表現されている状態の改善は以下のとおりである。まず、社会から孤立した多胎ママに、当法人の存在と取り組み（サービス）を認知してもらう（box44）ことで、他の多胎ママとつながることができる場が存在すること

³ 三つのコミュニティのうち「ふたごのへや」以外は参加に際して母子手帳を確認し、多胎ママに限って利用を認めている。「ふたごのへや」ではこうしたチェックまでは行っていないが、多胎ママ・パパ（養育者）のみ参加可能であることを伝えたくて、参加要件を見て申し込んできた人の見に参加を認めており、参加後も要件を満たさない参加者には退出を求めている。

を知ってもらう (box43)。そうした多胎ママに、相互に交流できる場として「ふたごのへや」、「ふたごのいえ」、「ふたごのひろば」を提供する (box42) ことで、多胎ママに他の多胎ママとの接点を持ってもらう (box41)。

図2 つなげる ToC 「多胎ママ同士をつなげる」パート



ただし、単に場を提供するだけでは心無い人たちの悪意のある書き込み（いわゆる「炎上」）や、多胎ママに成りすました犯罪・営業目的の参加などが発生する可能性もある。そこで、参加者のチェックや参加時の声掛け、その後のフォローにより「あったかい」空間を維持する (box40) ことができ、多胎ママは安心して参加し、他の多胎ママの喜びや苦しみを知って共感することで、仲間がいるという安心感を得る (box39)。さらに、多胎ママが受動的に参加するだけでなく、自分の話を人に聞いてもらえる機会を提供する (box38) ことで、多胎ママが、安心して本心を打ち明け、自分の苦しさは自分だけの苦しさではなく、自分を責めなくてよいことに気づくとともに、多胎育児の喜びを思い出す (box37)。

以上の想定を検証するために、アンケートの質問項目は表 1 に示した 17 問とした。問 1 から 10 までが多胎ママの状態を捉えるための質問であり、このう

ち問 1 から 5 が当法人のサービスを利用する前、問 6 から 10 は利用後の状態に関するものである。これらの問いは、図 2 に示したパートのゴールである box37 を念頭に設計したものであり、利用前と利用後を比較することによって、サービスの効果を捉えることも意図している。これに対して問 11 以降は、サービスをどの程度利用しているか、サービスに対してどのように感じているかを尋ねる質問であり、box38 から 44 の流れの一部を捉えるための質問も含んでいる。

表1 質問一覧

1. <利用前> 双子・多胎育児はどの程度楽しいと感じていましたか？
2. <利用前> 育児において、自分を責めることはありましたか？
3. <利用前> 育児において、無力感を感じることはありましたか？
4. <利用前> 育児において、孤立感を感じることはありましたか？
5. <利用前> 自分自身の自信を失うと感じることはありましたか？
6. <利用後> 双子・多胎育児はどの程度楽しいと感じていますか？
7. <利用後> 育児において、自分を責めることはありますか？
8. <利用後> 育児において、無力感を感じることはありますか？
9. <利用後> 育児において、孤立感を感じますか？
10. <利用後> 自分自身の自信を失うと感じることはありますか？
11. どの程度見たり・参加したりしますか？
12. メッセージ書き込み・発言をしたことはありますか？
13. 書き込み・発言をしづらいつ感じますか？
14. 他のママが相談・質問する際の書き込みについて、どの程度共感しますか？
15. 自分と似た苦しい状況のママがいると感じたことはありますか？
16. 自分自身から、質問や相談のメッセージを投げかけることはありますか？
17. 投げかけたとき、自分の話を受け止めてもらえたと感じますか？

具体的に見ていくと、まず問 1, 6 は多胎育児の楽しさを尋ねる質問であり、回答は「とても楽しい」「まあ楽しい」「どちらでもない」「あまり楽しくない」「とても楽しくない」の 5 つの選択肢の中から一つを選んでもらう形式である。問 2, 7 は、自責の感情の有無、問 3, 8 が無力感を感じているかどうか、問 4, 9 が孤立感を感じているかどうか、問 5, 10 が自信を喪失しえちるかどうかを

尋ねる質問である。問 2 以降も回答は選択肢の中から一つを選んでもらう形式であるが、選択肢は 3 つであり、「よく（責める、感じる、...）」、「たまに（責める、感じる、...）」、「（責める、感じる、...）ことはない」、の三種類である。

問 11 は利用の頻度を尋ねる質問であり、そもそも当法人のサービスをどの程度利用しているかどうかを明らかにするためのものである。問 12 は自分からの書き込みや発言に関する積極度を尋ねる質問である。これに対して問 13 は、書き込みや発言がどの程度やりやすいと感じているかを尋ねる質問である。この問いは、box40 でいう「あったかい空間」が維持されているかどうかを確かめる役割もある。問 14 は、他の多胎ママの書き込みへの共感の有無を尋ねる質問であり、問 15 は自分と似た多胎ママの存在を感じているかを尋ねる質問である。これらの問いは、box39 の状態が達成されているかを把握するためのものでもある。

問 16 は問 12 と類似の質問であるが、質問や相談など支援を求める行動をとったかを尋ねる質問であり、box38 が意図するように、受動的な利用ではなく、積極的に支援を求める行動がみられるかどうかを把握する目的もある。問 17 は積極的な行動をとった場合のオンラインコミュニティからの反応を尋ねており、この問いも box40 のあったかい空間の把握につながる。

問 11 から 16 では、選択肢は「よく～する」「たまに～する」「まったく～しない」の 3 つである。問 17 では質問やメッセージを投げかけた人に対して受けた反応を尋ねるため、これらに加えて「したことがない」という選択肢を加えている。

3.4. 支援の効果の検証方法

以上の質問に対する回答結果を用い、本稿では大きく二つの分析を行う。第一の分析は支援の効果の計測である。この分析では問 1 から 10 までの利用前・

利用後の各項目の選択状況を数値化し、利用前後の差を求める。具体的には、問6の回答数値と問1の回答数値との差が育児の楽しさの度合いの変化を表し、同様に問7から問2を引いたものが自責の感情、問8から問3を引いたものが無力感、問9から問4を引いたものが孤立感、問10から問5を引いたものが自信喪失に関する変化を表す。本稿ではこれらの変化がサービス利用によってもたらされたものと考え、計算された差が統計的に有意な形でゼロと異なるかどうかを検定することによって、支援サービスの効果の有無を検証する。なお、この差がサービスの効果を表すという想定の妥当性については、以下で分析結果と合わせて検討を行う。

数値化においては、程度が大きいことを示す選択肢ほど大きな値、小さいことを示す選択肢ほど小さな値を割り振った。例えば問1は、「とても楽しい」を5、「まあ楽しい」を4、「どちらでもない」を3、「あまり楽しくない」を2、「とても楽しくない」を1とし、問7では「よく責めている」を3、「たまに責めている」を2、「責めることはない」を1とした。問16及び17では、「したことがない」を1としている。このため、取りうる値としては、問1と6は1から5、問17は1から4、それ以外の問いは1から3である。したがって、差分がとりうる値は問6－問1では－4から4、問10－問5では－3から3であり、それ以外は－2から2である。なお、育児の楽しさとその差分は値が大きいほど状態が望ましいことを示すのに対し、それ以外の自責の感情、無力感、孤立感、自信喪失に関しては、値が小さいほど望ましい状態を指すので注意が必要である。

第二の分析として、本稿ではどのような場合にこうした効果、つまり状態の改善の程度が大きくなるかを回帰分析によって明らかにする。この分析では、上記の5つの差分を被説明変数とし、問11から問17の回答を説明変数とする。つまり、以下の(1)式を想定し、実際のデータに最も当てはまりのよい係数 b_1 か

ら b_7 の推定値を求める。

$$\begin{aligned} (\text{状態の変化}) = & a + b_1(\text{問 11}) + b_2(\text{問 12}) + b_3(\text{問 13}) + b_4(\text{問 14}) + b_5(\text{問 15}) \\ & + b_6(\text{問 16}) + b_7(\text{問 17}) \end{aligned} \quad (1)$$

この式において、**状態の変化**は楽しさの変化（問 6－問 1）、自責感情の変化（問 7－問 2）、無力感の変化（問 8－問 3）、孤立感の変化（問 9－問 4）、そして自信喪失の変化（問 10－問 5）を代替的に用いる。これにより、オンラインサービスの利用状況によってサービスの効果に違いがみられるかどうかを明らかにするとともに、図 2 の因果関係の想定の妥当性を明らかにする。

4. 分析結果

4.1. 多胎育児問題の実態

分析結果を示す前に、各問に対する回答状況を確認してみよう。図 3 ならびに表 2 は、問 1 から 10 までの回答の分布を示したものであり、表では数値化した際の値も併せて示している。図も表もともに、左側には当法人のサービスを利用する前に関する問 1～5、右側には利用後に関する問 6～10 の回答を示し、同じ質問項目に関して比較が可能なよう対応させている。このうち当法人のサービス利用前を表す問 1 から 5 の回答結果は、支援につながっていない多胎ママがどのような状態に置かれているのかを表す実態把握の役割も果たしている。

図3 回答結果 (1) : 問 1 から 10

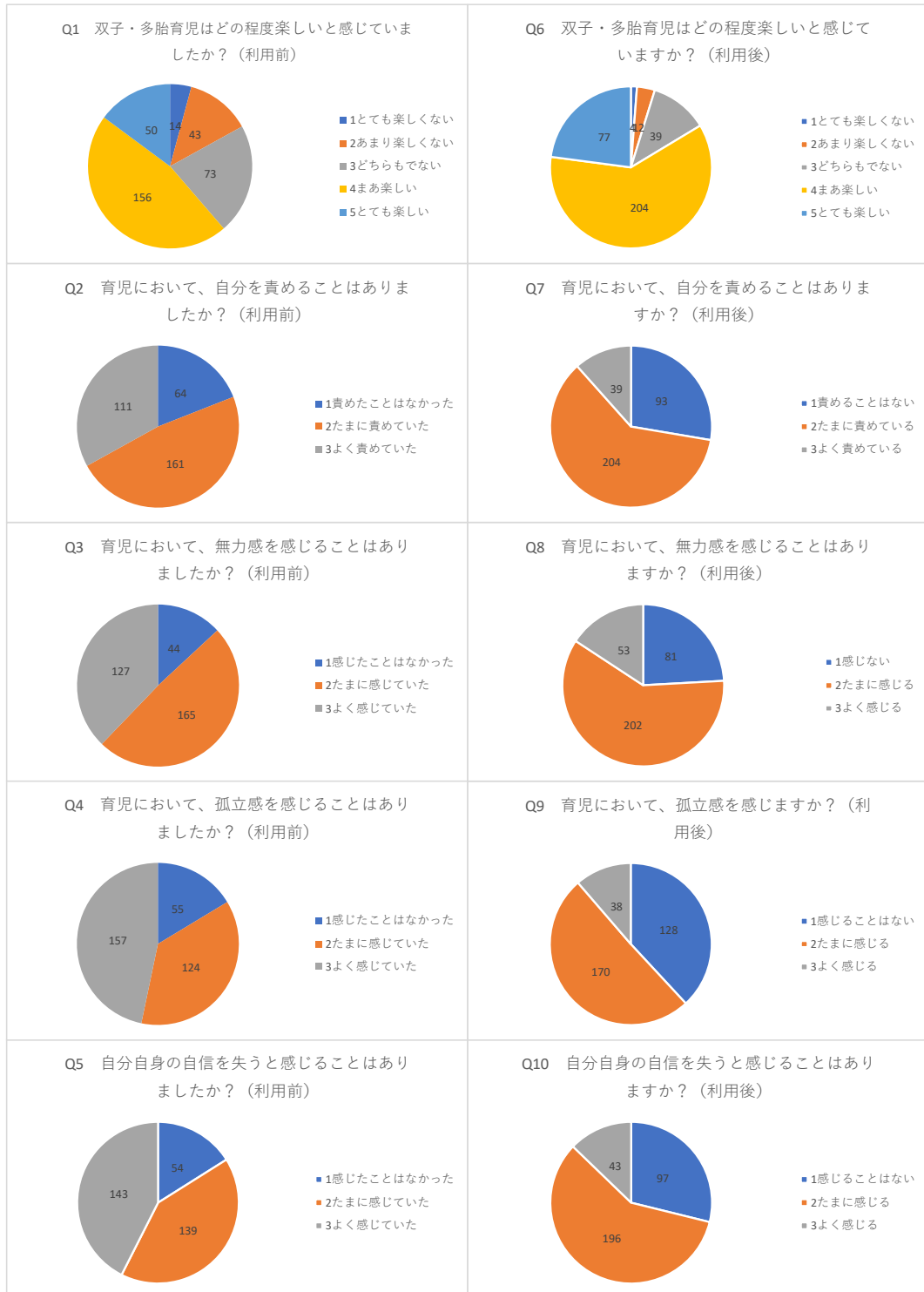


表2 回答結果 (1) : 問 1 から 10

Q1 双子・多胎育児はどの程度楽しいと感じていましたか？(利用前)			Q6 双子・多胎育児はどの程度楽しいと感じていますか？(利用後)		
	回答数	%		回答数	%
1とても楽しくない	14	4.17	1とても楽しくない	4	1.19
2あまり楽しくない	43	12.80	2あまり楽しくない	12	3.57
3どちらでもない	73	21.73	3どちらでもない	39	11.61
4まあ楽しい	156	46.43	4まあ楽しい	204	60.71
5とても楽しい	50	14.88	5とても楽しい	77	22.92
Total	336	100	Total	336	100

Q2 育児において、自分を責めることはありましたか？(利用前)			Q7 育児において、自分を責めることはありますか？(利用後)		
	回答数	%		回答数	%
1責めたことはなかった	64	19.05	1責めることはない	93	27.68
2たまに責めていた	161	47.92	2たまに責めている	204	60.71
3よく責めていた	111	33.04	3よく責めている	39	11.61
Total	336	100	Total	336	100

Q3 育児において、無力感を感じることはありましたか？(利用前)			Q8 育児において、無力感を感じることはありますか？(利用後)		
	回答数	%		回答数	%
1感じたことはなかった	44	13.10	1感じない	81	24.11
2たまに感じていた	165	49.11	2たまに感じる	202	60.12
3よく感じていた	127	37.80	3よく感じる	53	15.77
Total	336	100	Total	336	100

Q4 育児において、孤立感を感じることはありましたか？(利用前)			Q9 育児において、孤立感を感じますか？(利用後)		
	回答数	%		回答数	%
1感じたことはなかった	55	16.37	1感じることはない	128	38.10
2たまに感じていた	124	36.90	2たまに感じる	170	50.60
3よく感じていた	157	46.73	3よく感じる	38	11.31
Total	336	100	Total	336	100

Q5 自分自身の自信を失うと感じることはありましたか？(利用前)			Q10 自分自身の自信を失うと感じることはありますか？(利用後)		
	回答数	%		回答数	%
1感じたことはなかった	54	16.07	1感じることはない	97	28.87
2たまに感じていた	139	41.37	2たまに感じる	196	58.33
3よく感じていた	143	42.56	3よく感じる	43	12.80
Total	336	100	Total	336	100

まず利用前の状況、あるいは多胎ママの困難に関する実態に関する結果から見てみると、育児の楽しさに関する問1の回答結果は、約半数の回答者がある程度の楽しさを感じていたことを示している。しかし、約17%の回答者はあまり楽しくない、あるいはとても楽しくないと回答している。これに対して問2以下の回答結果は深刻な状況を示している。まず自責の感情を持ったかどうかを訪ねた問2からは、8割を超える回答者が育児に置いて自分をたまに、あるいはよく責めていたと回答している。また、無力感、孤立感に関する問3、4からも、8割程度の回答者がたまに、あるいはよく感じていたと回答している。自信の喪失に関しても同様で、問5の回答結果は8割超の多胎ママがたまに、あるいはよく自信を失うことがあったと回答している。

これに対して当法人のサービス利用後を見てみると、どの項目についても改善がみられる。育児が楽しくない（問6）という回答は合わせて5%程度に減少し、自責の感情、無力感、孤立感、自身の喪失（問7-10）についても責めることがない・感じないという回答が大きく増加し、また「たまに」が増加する代わりに「よく」が大きく減っている。こうした違いは当法人のサービス利用により、ToCのbox37に示したような状態を達成する効果が存在することを示唆している。

ただし、こうした差が統計的に有意なものであるかは定かではない。そこで、得られた結果に有意な差であり、支援の効果が存在するといえるかどうかについては4.2節で改めて分析を行う。

次に、問11から17までの回答の分布を示したのが図4ならびに表3であり、表2では数値化した際の値も併せて示している。まず問11からは、95%以上の回答者が各サービスについてある程度以上見る、あるいは参加する状態にあることが分かる。登録するだけで利用していない参加者はほとんどいない。問12からは、自分からの書き込みや発言について、行ったことがないという回

答者が3割程度存在し、受動的な利用が多いことが分かる。たまに書き込む・発言する、という回答は7割近くにはのぼっているが、よく書き込む・発言するという回答は3%にも満たない。問13の書き込み・発言のしやすさに関しては、しづらさをとても感じるという回答は13%であり、8割超の回答者が全く、あるいはたまにしか感じないと答えている。つなげる ToC (box40) が目指すあったかい空間の維持はある程度達成されていると考えてよいだろう。

問14に関しては、他のママの書き込みにまったく共感できないという回答は1%にも満たず、6割の回答者はある程度共感できる、4割弱の回答者はとても共感できると回答している。問15についても同様の結果であり、自分と似た苦しい状況のママがいると感じることがまったくないという回答は2%程度であり、半数近くがたまに感じる、45%はとても感じると回答している。つなげる ToC の box39 が示す状態は、達成されていると考えてよいだろう。

積極的に支援を求める行動を表す問16については、自分から質問や相談を投げかけたことがないという回答は5割弱、たまにするという回答は5割超、よくするという回答は2%である。積極的に支援を求める行動をとらず、受動的に書き込みや発言を見ている回答者と、そうした行動をたまにする回答者が半数ずつ存在することがわかる。積極的な行動をとった場合のコミュニティーからの反応を表す問17からは、自分の話を受け止めてもらえたと「とても感じる」が全体の35%で、「たまに」を合わせると全体の半数以上を占めることがわかり、「したことがない」を除いた中では95%以上となり、ほとんどの利用者が一定程度受け止めてもらえたと感じている。

図4 回答結果 (2) : 問 11 から 17

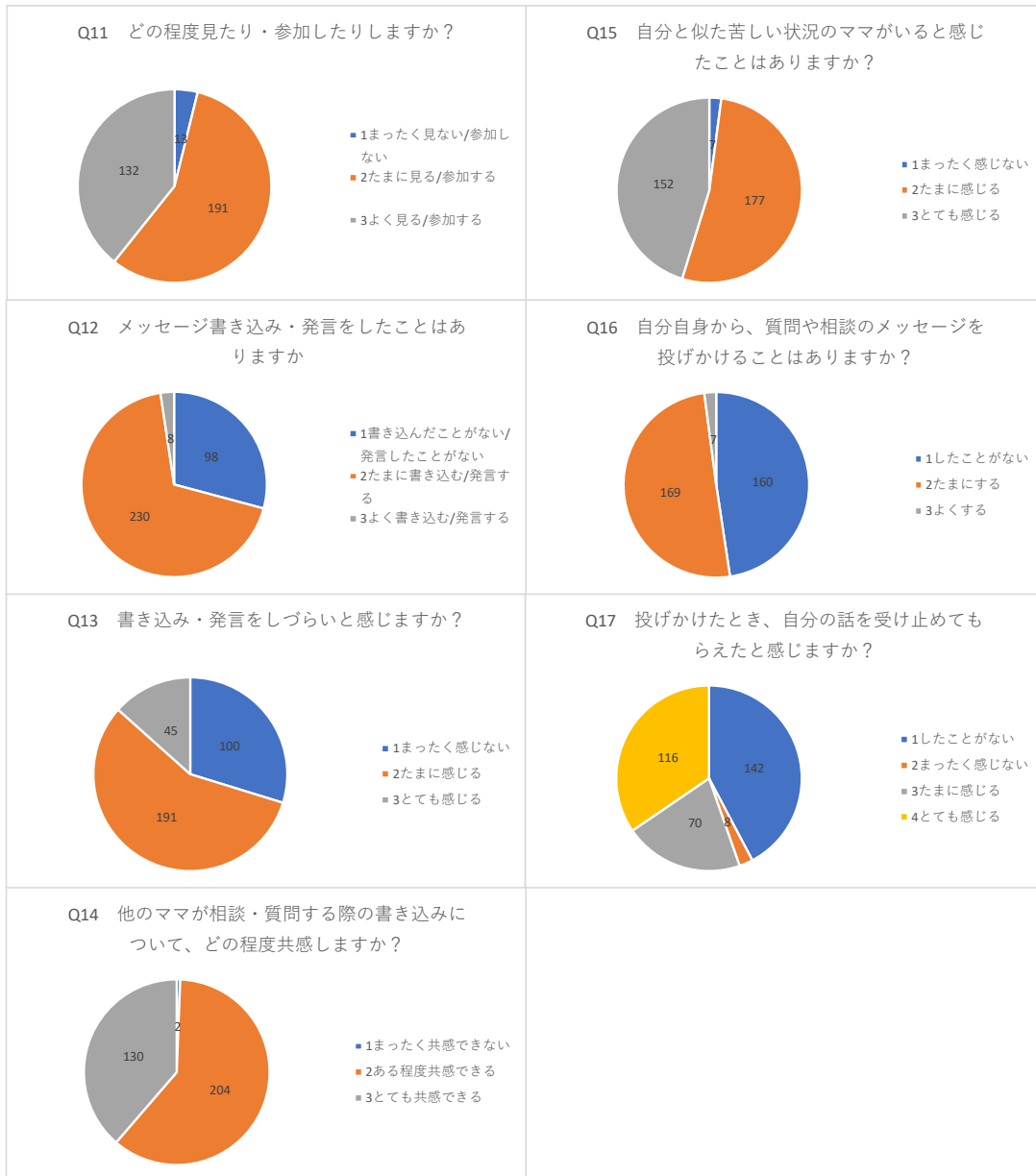


表3 回答結果 (2) : 問 11 から 17

Q11 どの程度見たり・参加したりしますか？			Q15 自分と似た苦しい状況のママがいると感じたことはありますか？		
	回答数	%		回答数	%
1まったく見ない/参加しない	13	3.87	1まったく感じない	7	2.08
2たまに見る/参加する	191	56.85	2たまに感じる	177	52.68
3よく見る/参加する	132	39.29	3とても感じる	152	45.24
Total	336	100	Total	336	100.00
Q12 メッセージ書き込み・発言をしたことはありますか			Q16 自分自身から、質問や相談のメッセージを投げかけることはありますか？		
	回答数	%		回答数	%
1書き込んだことがない/発言したことがない	98	29.17	1したことがない	160	47.62
2たまに書き込む/発言する	230	68.45	2たまにする	169	50.30
3よく書き込む/発言する	8	2.38	3よくする	7	2.08
Total	336	100.00	Total	336	100.00
Q13 書き込み・発言をしづらいと感じますか？			Q17 投げかけたとき、自分の話を受け止めてもらえたと感じますか？		
	回答数	%		回答数	%
1まったく感じない	100	29.76	1したことがない	142	42.26
2たまに感じる	191	56.85	2まったく感じない	8	2.38
3とても感じる	45	13.39	3たまに感じる	70	20.83
Total	336	100.00	4とても感じる	116	34.52
			Total	336	100.00
Q14 他のママが相談・質問する際の書き込みについて、どの程度共感しますか？					
	回答数	%			
1まったく共感できない	2	0.60			
2ある程度共感できる	204	60.71			
3とても共感できる	130	38.69			
Total	336	100.00			

4.2. 支援効果の検証

問 1 から 5 と問 6 から 10 の回答を比較した結果からは、当法人のサービス利用の前後で多胎ママの状態に改善が見られ、当法人のサービスが効果を持つ可能性が示された。しかし、4.1 節の分析は単に分布を比較しただけであり、得られた差は誤差の範囲で生じている可能性も否定できない。そこで、ここでは対応する各問の回答数値の差が統計的に有意な形でゼロと異なるかどうかを検定し、得られた差が示すサービスの効果が統計的な意味でも支持されるかどうかを明らかにする。

ここで行う分析は、各回答者の問 1 から 5 の回答数値の分布とそれに対応する問 6 から 10 の回答数値の分布に違いがあるかどうかを検定するものであり、具体的には Wilcoxon の符号順位検定を行う。⁴また、有意な違いが見られる場合に、その方向を明らかにするために、差の値の分布の状況も分析する。得られた結果は表 4 の通りであり、(1)に符号順位検定の結果を、(2)に差の値の分布を示している。

符号順位検定の結果は、問 1 から 5 までの回答と、それに対応する問 6 から 10 までの回答の間で、分布に有意な差があることを示している。検定量である z 値はいずれも絶対値で大きな値を取り、分布に違いがないという帰無仮説の下で各 z 値が得られる確率を表す p 値はいずれも 0.01 を下回っており、帰無仮説は有意水準 1%で棄却される。違いの方向は z 値の符号から分かるが、問 1 と 6 の比較からは利用後値が減少していること、それ以外のケースでは増加していることが分かる。

⁴ なお、平均の差に関する t 検定を行った場合にも、得られる結果は大きく変わらない。

表4 利用前後の状態の差

(1) Wilcoxonの符号順位検定

楽しさ(問6=問1)		自責感情(問7=問2)		無力感(問8=問3)		孤立感(問9=問4)		自信喪失(問10=問5)	
z値	10.02	z値	-8.80	z値	-9.19	z値	-12.49	z値	-10.90
p値	0.00 ***	p値	0.00 ***	p値	0.00 ***	p値	0.00 ***	p値	0.00 ***
N	336	N	336	N	336	N	336	N	336

(2) 差の値の分布

△楽しさ(問6-問1)			△自責感情(問7-問2)			△無力感(問8-問3)			△孤立感(問9-問4)			△自信喪失(問10-問5)		
値	頻度	%	値	頻度	%	値	頻度	%	値	頻度	%	値	頻度	%
4	0	0.00												
3	4	1.19										3	0	0.00
2	33	9.82	2	0	0.00	2	1	0.30	2	0	0.00	2	0	0.00
1	83	24.70	1	11	3.27	1	10	2.98	1	5	1.49	1	6	1.79
0	209	62.20	0	219	65.18	0	211	62.80	0	159	47.32	0	194	57.74
-1	6	1.79	-1	100	29.76	-1	105	31.25	-1	147	43.75	-1	123	36.61
-2	1	0.30	-2	6	1.79	-2	9	2.68	-2	25	7.44	-2	13	3.87
-3	0	0.00										-3	0	0.00
-4	0	0.00												
Total	336	100	Total	336	100	Total	336	100	Total	336	100	Total	336	100

こうした結果は差の分布を示した(2)からも明らかである。差は 0 を中心として対照には分布していない。育児の楽しさに関しては、差はマイナス方向に分布しており、利用前と比べて利用後の値が大きいこと、つまり利用前よりも楽しさを感じるという回答が多いことがわかる。同様に、自責感情、無力感、孤立感、自信喪失については利用前と比べて利用後の値が小さく、これら負の感情が小さくなっていることを示している。以上の結果は、当法人のサービスを利用することで、多胎ママの困難な状況が改善することを示唆している。

ただし、上記の分析には厳密でない点があることにも注意が必要である。特に留意すべき点は、得られた結果が本当に当法人のサービスを利用した効果を表しているのかどうか、という識別の問題である。上記の分析では、支援の効果を、問 1 から 5 の回答と、それに対応する問 6 から 10 の回答の差としたが、アンケートでは「利用前」および「利用後」がいつの時点を指すのかを明示しておらず、得られた変化は多胎育児への慣れによる変化、子どもたちの成長に伴い困難が解消されたことによる変化など、他の効果を含んでいる可能性がある。ただし、本稿の結果は効果が見られる場合に得られるべき結果であり、効果が存在することの必要条件ではある。このため、効果が存在することの「可能性」を示していると結論付けることは可能である。

「ふたごつなげるアンケート 2022」は、回答の容易さを重視して設計したアンケートであるため、上記のような他の効果を取り除き、当法人のサービス利用の効果だけを取り出すことは難しい。ただし、もしサービス利用に効果があるのであれば、利用の程度や状況によって、効果に違いが見られるはずである。特に、つなげる ToC (図 2) の想定が正しければ、多胎ママと他の多胎ママの「つながり」の程度が大きいほど得られる効果は大きくなるはずである。そこで次に、サービス利用の程度と多胎ママの状態の改善との関係について分析を行う。

4.3. 支援効果の決定要因

利用前後の多胎ママの状態の有意な改善は、どのような場合に見られるのだろうか。この問いに答えるために行った回帰分析の結果を示したのが表5である。推計方法は最小二乗法であり、表には得られた係数(上記(1)式の b_1 から b_7)の推定値とその標準誤差を示している。標準誤差は、不均一分散に対して頑健な標準誤差を用いている。被説明変数が離散変数であることを考慮して、線形モデルの最小二乗法推定ではなく順序プロビットモデルの推定も行ったが、得られた結果に質的な違いはなかった。

まず、一番左の育児の楽しさの改善に関する結果からみると、問11から17のうち、利用前後の楽しさの変化に統計的に有意な形で影響を与えているのは、問15の「自分と似た苦しい状況のママがいると感じたことはありますか？」への回答である。この係数がゼロであるという帰無仮説は有意水準5% ($p=0.05$)で棄却され、得られた0.172は誤差の範囲の値とはいえない。問15の回答は、数値が大きいほど似たママがいると感じている程度が大きいことを表すため、0.172という係数は、感じている程度が1大きいと、楽しさの数値が利用前に比べて0.172増加することを意味している。サービスを通じて自分と似た苦しい状況が他の多胎ママにもみられることを知ると、育児に楽しさを感じる程度が増加することが分かる。

次の自責の感情の変化に関しては、統計的に有意な影響を与えているのは問14「他のママが相談・質問する際の書き込みについて、どの程度共感しますか？」である ($p=0.05$)。この結果は、共感の程度が1大きいと自責の感情の程度が0.156減ることを表している。サービスを通じて他の多胎ママの相談や質問に共感することで、問題が必ずしも自分の責任ではないことを知り、自分を責める程度が減少することが分かる。

表5 回帰分析の結果

	△楽しさ		△自責感情		△無力感		△孤立感		△自信喪失	
	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値
Q11 どの程度見たり・参加したりしますか？	0.104	0.157	0.017	0.775	-0.022	0.692	-0.023	0.723	-0.001	0.980
Q12 メッセージ書き込み・発言をしたことはありますか	0.113	0.298	-0.002	0.978	0.046	0.613	-0.180	0.066 *	-0.140	0.098 *
Q13 書き込み・発言をしづらいつ感じますか？	-0.101	0.119	0.023	0.637	0.083	0.142	0.110	0.054 *	0.147	0.005 ***
Q14 他のママが相談・質問する際の書き込みについて、どの程度共感しますか？	0.027	0.773	-0.156	0.028 **	-0.144	0.056 *	-0.213	0.011 **	-0.101	0.197
Q15 自分と似た苦しい状況のママがいると感じたことはありますか？	0.172	0.034 **	-0.071	0.254	-0.156	0.018 **	-0.053	0.470	-0.171	0.011 **
Q16 自分自身から、質問や相談のメッセージを投げかけることはありますか？	-0.213	0.124	0.069	0.509	0.111	0.330	0.327	0.007 ***	0.107	0.340
Q17 投げかけたとき、自分の話を受け止めてもらえたと感じますか？	0.027	0.608	-0.037	0.377	-0.037	0.401	-0.048	0.304	-0.008	0.858
定数項	-0.018	0.955	0.149	0.551	0.133	0.654	-0.158	0.595	0.062	0.817
R-squared	0.042		0.039		0.066		0.074		0.087	
N	336		336		336		336		336	

無力感の変化に関しては、問 14 と問 15 がともに有意水準 5% で統計的に有意な影響を与えている。この結果は、他のママの書き込みへの共感の程度、似た状況のママの存在を感じる程度が 1 大きいと、無力感の程度がそれぞれ 0.144、0.156 減少することを表している。サービスを通じて共感する書き込みや似たママの存在を知ること、他のママにもできないことが多いことを知り、育児に対する無力感が減少することが分かる。

孤立感に関しては、問 12 ($p=0.1$)、問 13 ($p=0.1$)、問 14 ($p=0.05$)、問 16 ($p=0.01$) がいずれも統計的に有意な効果を示している。書き込み・発言をする程度が大きい、あるいは他のママの書き込みに共感する程度が大きい回答者ほど孤立感を感じる程度が小さいという結果は、積極的にサービスを利用したり、利用を通じて同じような境遇の多胎ママの存在を知ること、多胎ママの孤立感が減少することを示している。これに対して、書き込み・発言をしづらいつらいつら感じる程度や自分から質問や相談を投げかける程度が大きい回答者ほど孤立感を感じる程度が大きいという結果は、消極的にサービスを利用している回答者はかえって孤立感が増すことを示している可能性がある。他方でこの結果は、孤立感を感じて書き込み・発言がしづらいつらいつら、あるいは質問や相談を投げかけにくい、という逆の因果を表している可能性もある。

最後に自分自身に対する自信を失うという感情に関しては、問 13 と 15 がそれぞれ 1%、5% 有意水準で統計的に有意な影響を与えている。前者の結果は孤立感の場合と同様に、書き込み・発言をしづらいつらいつら回答者が自信を失っている、あるいは自信を失っているためにしづらいつらいつら、という可能性を示している。後者の結果は、サービスの利用を通じて自分と似た苦しい状況のママがいることを知ること、自分に対する自信を回復することができることを示している。

以上の結果は、表 5 に示したサービス利用前後の多胎ママの状態の改善の程度が、当法人のサービス利用の程度やそこで感じる共感などの程度の違いによ

って異なることを意味している。この結果は、多胎ママの状態の改善が、育児への慣れや子供の成長など、サービス利用以外の要因のみによって生じているのではないことを意味しており、当法人の支援に一定の効果があることを示している。

5. おわりに

本稿では、2022年2月に当法人が実施した「ふたごつなげるアンケート 2022」の結果と、そのデータを用いて当法人の支援の有効性を検証した結果を報告した。得られた結果をまとめると、次のとおりである。

●多胎ママが抱える困難の実態(サービス利用前)(図3, 表2)

- ・約17%の回答者が多胎育児をあまり、あるいはとても楽しくないと感じている
- ・8割超の回答者が育児において、自分を責めることがある
- ・8割程度の回答者が育児において、無力感あるいは孤立感を感じている
- ・8割超の回答者が自分自身に対して自信を失っている

●サービス利用の状況(図4, 表3)

- ・95%以上の回答者がオンラインコミュニティを見たり参加している
- ・3割程度の回答者は自分からの書き込みや発言を行わない受動的な利用者であり、7割程度はたまに書き込み・発言を行う
- ・8割超の回答者が、書き込み・発言をしづらいとは感じていない
- ・99%以上の回答者は、他のママの書き込みに共感している
- ・98%程度の回答者は、自分と似た苦しい状況のママがいると感じている
- ・回答者の約半数は自分から質問や相談を投げかけたことがない受動的な利用者で、約半数はたまに行う利用者である
- ・投げかけた利用者の中では、95%以上が自分の話を受け止めてもらえたと感じている

●サービス利用による困難の軽減(サービス利用前後の比較)

- ・育児が楽しくないという回答は4%程度に減少している(図3, 表2)
- ・自責の感情、無力感、孤立感、自身の喪失についても、責めることがない・感じないという回答が大きく増加し、「よく責める・感じる」が大きく減って「たまに」が増加している(図3, 表2)
- ・検定結果は、上記の改善がいずれも統計的に有意であることを示している(表4)

●困難の軽減をもたらす要因(表5)

- ・サービス利用において、メッセージ書き込み・発言を行う程度が増加すると、育児の楽しさを感じる程度が大きくなる
- ・サービス利用を通じ、他のママが相談・質問する際の書き込みに共感する程度が大

きいほど、育児について自分を責める程度、無力感や孤立感を感じる程度が減る
・サービス利用を通じ、自分と似た苦しい状況のママの存在を感じる程度が大きいほど、
育児の楽しさが増大し、無力感を感じる程度が減り、自分に自信を失う程度が減る
・サービス利用を通じ、自分自身から質問や相談のメッセージを投げかけることで、孤
立感を感じる程度が減る

ただし、以上のうち因果関係に関する部分に関しては、分析において厳密な
識別を行ったわけではないため、逆の因果関係や見せかけの因果関係が示され
ている可能性も否定できない。また他の分析も含め、分析方法の厳密性や、コ
ントロール（統制）の方法についても改善の余地が存在する。こうした点を改
善する分析は今後の課題としたい。また、つなげる ToC の残りの部分に関して
も、本報告書と同様の実態把握や支援の有効性に関する分析を行っていくこと
にしたい。

当法人では、今後もこうした形で支援の意義を示すことで、多胎育児の問題
に関する社会的認知を増し、当法人の活動に対してより多くの理解を求めてい
く予定である。そこで示される支援の有効性を評価いただき、社会課題として
の多胎育児の問題の解決、ひいては「誰もが命の誕生を当たり前で喜べる社会」
の実現に向け、様々な団体・個人からのご協力を仰げれば幸いである。

参考文献

- 田辺大・内田浩史(2022)「社会課題の可視化とセオリー・オブ・チェンジ」『国
民経済雑誌』第 226 巻第 1 号，近刊。
- (一社)日本多胎支援協会(2018)「多胎育児家庭の虐待リスクと 家庭訪問型支
援の効果等に関する調査研究」厚生労働省「平成 29 年度子ども・子育て支
援推進調査研究事業」報告書。

ふたごつなげるアンケート2022

いつもNPO法人つなげるのオンラインサービスのご利用および活動へのご協力・応援ありがとうございます。

当法人が提供するオンラインサービスのさらなる品質向上・発展に向けてのアンケートとなります。本アンケートでは、一切の個人情報取得はございません。匿名で回答いただいたアンケート結果を分析し、今後のNPO法人つなげるをはじめとした、全国の多胎支援活動に活用します。

どうぞご協力よろしく申し上げます。

<対象者>

- ・ふたごのへや、いえ、ひろば、おしゃべりのへやを利用したことがある
- ・双子・三つ子など多胎育児を現在されている
(多胎妊娠中の方は、対象外となります。ご了承ください。)

<質問数>

全17問 (回答はすべて選択式)

<想定所要時間>

約1分

<アンケート実施期間>

2022年2月7日 から 2月15日まで

<アンケート実施元>

特定非営利活動法人つなげる

<残り17問です>

<利用前> 『ふたごのへや・いえ・ひろば、おしゃべりのへや』 をご利用前のごことを教えてください。

『ふたごのへや・いえ・ひろば、おしゃべりのへや』
ご利用前のごことを教えてください。



1. <利用前> 双子・多胎育児はどの程度楽しいと感じていましたか？ *

- とても楽しい
- まあ楽しい
- どちらでもない
- あまり楽しくない
- とても楽しくない

2. <利用前> 育児において、自分を責めることはありましたか？ *

- よく責めていた
- たまに責めていた
- 責めたことはなかった

3. <利用前> 育児において、無力感を感じることはありましたか？ *

- よく感じていた
- たまに感じていた
- 感じたことはなかった

4. <利用前> 育児において、孤立感を感じることはありましたか？ *

- よく感じていた
- たまに感じていた
- 感じたことはなかった

5. <利用前> 自分自身の自信を失うと感じることはありましたか？ *

- よく感じていた
- たまに感じていた
- 感じたことはなかった

<残り12問です>

<利用後> 『ふたごのへや・いえ・ひろば、おしゃべりのへや』をご利用後のことを教えてください。

『ふたごのへや・いえ・ひろば、おしゃべりのへや』
ご利用後のことを教えてください。



6. <利用後> 双子・多胎育児はどの程度楽しいと感じていますか？ *

- とても楽しい
- まあ楽しい
- どちらでもない
- あまり楽しくない
- とても楽しくない

7. <利用後> 育児において、自分を責めることはありますか？ *

- よく責めている
- たまに責めている
- 責めることはない

8. <利用後> 育児において、無力感を感じることはありますか？ *

- よく感じる
- たまに感じる
- 感じない

9. <利用後> 育児において、孤立感を感じますか？ *

- よく感じる
- たまに感じる
- 感じることはない

10. <利用後> 自分自身の自信を失うと感じることはありますか？ *

- よく感じる
- たまに感じる
- 感じたることはない

<残り7問です>

『ふたごのへや・いえ・ひろば、おしゃべりのへや』への参加状況を聞かせてください。

『ふたごのへや・いえ・ひろば、おしゃべりのへや』
の参加状況を聞かせてください



1 1. どの程度見たり・参加したりしますか？ *

- よく見る/参加する
- たまに見る/参加する
- まったく見ない/参加しない

1 2. メッセージ書き込み・発言をしたことはありますか？ *

- よく書き込む/発言する
- たまに書き込む/発言する
- 書き込んだことがない/発言したことがない

1 3. 書き込み・発言をしづらいつ感じますか？ *

- とても感じる
- たまに感じる
- まったく感じない

14. 他のママが相談・質問する際の手き込みについて、どの程度共感しますか？ *

- とても共感できる
- ある程度共感できる
- まったく共感できない

15. 自分と似た苦しい状況のママがいると感じたことはありますか？ *

- とても感じる
- たまを感じる
- まったく感じない

16. 自分自身から、質問や相談のメッセージを投げかけることはありますか？ *

- したことがない
- よくする
- たまにする

17. 投げかけたとき、自分の話を受け止めてもらえたと感じますか？ *

- したことがない
- とても感じる
- たまを感じる
- まったく感じない

ふたごつなげるアンケート2022



ご協力ありがとうございました。